

# KOBE YMCA NEWS



神戸青年 No.624

2013.7・8 July・Aug

発行所 日本YMCA同盟 東京都新宿区本塩町7  
THE YMCA神戸版 発行人/水野 雄二 編集人/櫻井 英治  
神戸YMCA 〒650-0001 神戸市中央区加納町2-7-15  
TEL. 078-241-7201 FAX. 078-241-7479  
URL http://www.kobeymca.org 印刷/わかばやし印刷

神戸YMCA  
年間聖句

喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。  
(ローマの信徒への手紙12:15)

## 武田理事長（会長）退任、 中道理事長（会長）就任



公益財団法人神戸YMCA武田寿子理事長（神戸キリスト教青年会会長）は去る5月29日に任期満了によって理事長（同時に会長）を退任され、代わって中道基夫副理事長が第12代目の理事長（同時に会長）に就任されました。武田寿子前理事長は2002年に史上初の女性理事長として就任され、また2006年に神戸YMCAの機構改革によって設置された神戸キリスト教青年会（神戸YMCA）の会長に就任されました。以来、公益財団法人（当時は財団法人）の理事長として11年の長きに亘って神戸YMCAをリードしてこられました。「失われた10年」と言われた1990年代の財政困難の時代を受け継ぎ、新しい方向性を見出すためにグランドデザイン「ゴール2011」を策定し、創立125周年までの前進目標を定めました。2000年代も低成長の時代、少子高齢化の時代にあって神戸YMCAも困難が続く中、女性理事長としてユース、ジェンダーの視点をもったYMCA作りを強調され、「子どもと若者のいのちが光り輝く」をモットーに若々しく活気のあるYMCAと変化しました。特にパートナーシップのYMCAとの関係強化を通して国際活動の活性化が図られたり、また兵庫県、神戸市など地方自治体との協働が推進されたりしたことも武田理事長時代の変化でした。2011年に神戸YMCAは125周年記念事業を成功させ、また財団法人は公益財団法人への移行認定を受け、新しい時代へ踏み出したことは武田前理事長のリードによるものでした。そしてこの度、「ゴール2011」を引き継ぎ、ネクストビジョン委員会、三宮会館検討委員会などを通して、神戸YMCAの次のビジョンを置き土産に退任されることになりました。理事会は武田前理事長のご功績に感謝し、「名誉理事」の称号を贈り、長くその榮譽を讃えることといたしました。本当に長い間のご奉仕に心から感謝申し上げます。中道基夫新理事長には新しい時代のYMCAのリードをお願いいたしますと共に、YMCAを愛する多くの皆様には新理事長に対するご支援もどうぞよろしくお願い申し上げます。

総主事 水野雄二

### 就任挨拶

武田理事長・会長の後を継ぎ、新理事長・会長に就任させていただくことになりました。この大役を担うことに戸惑いと不安を感じましたが、「わたしの恵みはあなたに十分である。（神の）力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ」（2コリント12:7）の言葉に励まされ、またこれまで培われてきた神戸YMCAの役員、スタッフ、そして会員の方々の協力体制に押し出されてお引き受けすることにいたしました。YMCAはその設立の歴史から、目の前の助けを必要としている人々（特に青年）のために活動してきました。それは何かを教える、与える、指導するというのではなく、その一人一人の中に与えられた可能性、光、笑顔を引き出す業ではなかったかと思えます。AIという歌手の「ハピネス」という歌の一節に、「君が笑えば この世界中に もっと もっと 幸せが広がる 君が笑えば すべてが良くなる この手で その手で つながる」という言葉があります。YMCAは、子どもや若者がこの言葉を実感し、経験し、そしてこの笑顔の輪に人々を招いていくことだと思います。それは単に楽しいことがある、面白いことがあるというのではなく、自分たちが笑える世界を一緒に創っていくことができるという希望に裏打ちされたものです。YMCAはこの希望を語る場でありたい。それは、まさに「あなたたちの息子や娘は預言し、老人は夢を見、若者は幻を見る」（ヨエル3:1）という聖書の言葉を表しています。神戸YMCAは大きな変化の時を迎えています。この変化の時に、変わることをない使命を受け継ぎ、希望と笑いに人々を巻き込んでいく神戸YMCAをみなさまと一緒に育んでいきたいと思っています。ご支援、ご協力いただきますようお願いいたします。

公益財団法人神戸YMCA理事長 神戸キリスト教青年会会長 中道基夫



## ボランティアリーダー トレーニング & 委嘱式

去る5月19日（日）に、2013年度神戸YMCAボランティアリーダー委嘱式が開催され、水野総主事の奨励とお祈りで1日をスタートしました。基調講演は、余島キャンプにも関わって下さっている森本崇資さん（Camp Tawingoディレクター）をお招きして「ボランティア」についてのお話をいただきました。冒頭より「ボランティアって何？」と問いかけられ、すぐに返答できない、あるいはすぐにイメージできないリーダーたちも、この問いがあったからこそ、改めてリーダーたちは、今自分たちがしている活動について考える機会となり、自らの行動目標を整理するよい機会になりました。午後からは、①地域とボランティア、②国際活動とボランティア、③余島キャンプとボランティア、④ファンドレイジングボランティアの新たな視点、という4つのテーマに分かれて、リーダーが自らの興味に応じて選択をし、YMCAにおける様々なボランティアについて考える時間をもちました。様々な視点から「ボランティア」を考えることを通じて、自分たちができることを再度、考え直し、可能性を広げる機会となりました。1日の学びを持ち合わせて、最後には各ブランチのリーダー会で振り返りがなされ、今後、各リーダー会においてどのようなことを大切に活動していくか、どんなチャレンジができるかということも話しあうことができました。例年3月に実施されるタイワークキャンプの参加者の発表の後、本年度のYMCA活動に関わるリーダーたちに総主事より委嘱状の授与が行われ委嘱がされました。既に2013年の活動はスタートを切っておりますが、改めて自分たちのリーダー会の活動を見直しする機会となりました。この委嘱式を皮切りにリーダートレーニング座学が行われました。



- 6/4（火）新しいグループワーク  
（講師：西宮ブランチ 宗行孝之介氏）
- 6/11（火）子ども理解（講師：余島センター 阪田晃一氏）
- 6/21（金）こどもたちの安全  
（講師：西神戸YMCA幼稚園 山田浩介氏）
- 6/24（月）YMCAとキャンプとキリスト教  
（講師：太山寺児童館 松田康之氏）

本年度もYMCA活動に関わって下さる多くのユースリーダーの皆さんに心から感謝をするとともに、彼らの活躍を心より期待しています。（担当：神戸YMCA野外・キャンプ事業COM 坂本孝司）

## 未来への提言

「分厚い《幻》を描く」

YMCAは現在（いま）を生きる団体ですが、その射程は未来へ延び、現在（未来のうちに）《幻》を描こうとするところに特徴があります。逆に《幻》を失うときは、YMCAの存在は危機に瀕する、といえるでしょう。では私たちは、現在（未来の《幻》）を描く力をどこに求めることができるのでしょうか。未来志向の一文を求められています。私が私をあえて、その力の淵源は過去（現在にある）と捉えている、と申しあげたいのです。少なくとも未来志向を強めようとするならば、私たちが射程を過去へも広げねばならないのでは？ こう考えて、神戸Yの先輩を1人紹介いたします。末包敏夫さん（こんな文章を遺しています（筆者が現代仮名遣いに直しています））。

「前略」青少年、そうです。私の接した青少年は私よりもっと経済的に不遇なものが多かった。略。私はこのいと弱い少年達の為にどれだけ考えさせられたことだろうか。略。社会的下積でもなく若い友達。略。これ等の青少年達との深い交渉は、私を神戸にしぼりつけてしまったのです。略。後略」

約80年前、「大正期」末の「神戸青年」に掲載された、抜粋です。神戸Yの学校へ通う生徒たちを「若い友達」と呼ぶ感性は、時代をこえたYらしさ。彼はまた、友達の背後にある社会矛盾をも見すえていました。

同じ人が先の戦時下、中国YMCAの「友達」のためにと南京、上海で働きました。いまなら（国際協力事業）。ただし当時国家どうしは敵味方、そして軍事占領下という対等でない関係における協力ゆえ、白眼視から始まる困難さでした。彼にも当初、抵抗する中国人を改心させようとの上から目線がなくはない。が、南京の惨状の見聞と5年以上にわたる駐在を通し、彼自身が変えられていった形跡もみられます。そうして「夢中になって」中国YMCAのために働きました。日本から来た有力牧師には「愛国的でない」とパッシングを浴びながら。

同志社大学  
人文科学研究部嘱託研究員  
遠藤 浩



# 水上安全

神戸YMCAアクアティックでは、年に2回(6月・10月)日常のプログラムの中に、水上安全というプログラムを行います。



これは泳法習得ではなく、「自分のいのちは自分で守る」ということを、水の中で衣服を身につけ、普段の水泳の環境とは違った感覚を体験します。まず、自分の身を守るには、浮き身の姿勢(上向き)・落ちたらまずしっかりと顔を水面に出し呼吸を確保する・大きな声を出し助けを呼ぶ。また、溺れている人を発見したら、自分で助けに行くのではなく浮くものを溺れている人に渡し大人の人を呼びに行くなど、基本的な事をプールの中で子どもたちに伝えます。「いのち」は全てに優先するかけがえのないものです。神戸YMCAアクアティックでは、このかけがえのない「いのち」を守り育むことを目的としています。成長するにつれ、海や川にまで生活圏を広げていく子どもたちに必要な知恵と、身を守る・助ける術を身につけてもらうことが、私たちYMCAの大切な働きであると考えています。

# 幼稚園



## 中学生のお兄さん、お姉さんありがとう!



毎年、トライやるウィークでたくさんの中学生が幼稚園を訪れます。今年度は、8校から中学2年生が訪れる予定です。1学期は、5校から17名が訪れています。事前のオリエンテーションの時には、緊張していたり、若干照れくさそうだったり、気構えの見える中学生ですが、初日の活動が終わると、中学生の顔は本当に、柔らかくなっています。中学生にとっては授業の一環で、仕方なく来ている人もいるかも知れませんが、子どもにとっては「遊び相手」が来てくれたのですから嬉しくてたまりません! そんな喜びを心と体いっぱい表してくるかわいい子どもたちに必要とされて過ごす数時間はどうでしょう?

誰かに必要とされた中学生の表情が柔らかくなるのは、わかりますね! そして、中学生の中には「懐かしい顔」も見られます。卒園生です。身長はグンと伸びていますが、面影は変わらず立場を変えての再会です。「幼稚園の先生っていっぱいの子どもが一気に周りに寄って来て大変!」「ずっと遊んでるだけやと思ってた…」と当時、幼稚園児だった頃を思い出す生徒もいます。幼稚園教諭にとっても、園児とごく自然に遊び戯れる中学生の姿や表情に保育の原点を見出すひとときでもあります。

中学生のお兄さん、お姉さんありがとう!

# 保育園



西宮地域では、65年前の西宮ワイズメンズクラブ発足を初としてYMCAの働きを行ってきました。38年前の西宮センターの開設、そして32年前の現会館落成と、時代に合わせそして地域の課題にあわせる中で活動内容も変えて、そして2003年からは西宮YMCA保育園が与えられ、乳幼児期の子どもの育ちにもさらに積極的に関わるようになりました。西宮YMCA保育園開園以来、保育園児の育ちだけではなく、子育て家庭などの地域の子育ち支援も行うため、園庭開放や子育て相談なども行っていますが、近年特にニーズを感じるのが、未就園児(0~2歳児)への子育て支援です。西宮YMCA保育園では親子で参加する2歳児の親子クラブ「ワイわい広場」を開催して地域のつながりをつくったり、地域の親子など子育て家庭にむけた手遊びや運動あそびの講習会なども行ってきました。今年が開園10周年ということもあり、6月には0~2歳の親子を対象としたおもちゃライブラリーの開催や夏には保護者の方を対象にほっと一息できるようなカラーセラピーを行っていきます。これからも地域に開かれた保育園を目指し、また地域と向き合う中でさらに子育て支援の活動を深めて地域のYMCAの繋がりも生かして行っていこうとしています。ぜひ多くの方の参加、ご意見、参画をお待ちしています。これからの西宮地域でのYMCAの歩みを応援してください。

# ホテル学科50周年に寄せて①

株式会社グリーンヒルホテル 浅野 充

我が母校である神戸YMCA学院専門学校ホテル学科が来年創立50年の節目を迎えます。



時代の要請で、今では4年制大学から専門学校まで観光・ホテル・ホスピタリティに関連した学びの場所は日本国内に100ヶ所を超えるようになったが、50年前は数えるほどしかなかったであろう。ホテル業に限らず、輩出した卒業生の数はおそらく1,000名を超え、現役で現場の第一線で活躍中の方も多きことであろう。この50年間のホテル業界の変遷は、関係者であればご存知だと思うが、過去から現在、そして未来へと時代の流れの中でこれからの観光産業(ホスピタリティーインダストリー)は益々右肩上がりの成長産業となると思われる。1963年に制定された「観光基本法」が44年後の2007年に全面改正・施行された「観光立国推進基本法」に、そして2012年に閣議決定された「観光立国指針基本計画」では、①2016年までに旅行消費額を30兆円へ、②訪日外客を2020年までに2,500万人とするなど、計7つの目標が決定され、本格的な観光産業隆盛への道筋が描かれた。そんな環境の中で、観光業界の受け皿である宿泊業をリードするホテル業が、伸び行く産業であることは確信を持って論じることができ、業界への優れた人材を送り込むことが求められる専門学校として、今後のあり方と目標を新たに見直すよい機会であると思う。全人類に共通する「ホスピタリティーマインド」を身につけた学生たちが、卒業してホテルと云うステージで最大限のパフォーマンスを演じて、一人ひとりのお客様の記憶に残る感動と明日への英気を感じていただけるように「当たり前」の事を当たり前「精一杯、一所懸命に働き、かつ自分自身の生き方と信念を誇りを持って日々成長していくことを心から祈念しております。

(浅野充さんは、1968年度の卒業生です)

# リフレッシュファミリーキャンプ 「ホタルを見に行こう!」を終えて

神戸YMCA東日本大震災復興支援「ファミリーサポート」では、年4回のファミリープログラムを計画しています。今年度2回目となるホテルキャンプが、6月15日から16日、1泊2日で開催されました。対象は阪神地域へ避難されているご家族が中心です。資金は、復興支援ボランティアリーダー会が今もなお、毎月1回続けている、街頭募金です。地道な努力が実を結び、今回も6家族24名の参加者とともに、初夏の自然に触れ合うキャンプを実施することができました。一日目は三田市香下の中農園を訪ねました。当初予定していた収穫体験は、大雨のため中止に。でも、農園主、中さんの発案で「黒豆の植え」をすることになりました。空梅雨に潤いを与える雨の音を聞きながら、「種のおへそが斜め45度になるように」という、中農園独自の手法で種を植えます。子どもたちも、お父さんお母さんも、夢中になって植えていました。「10月頃に収穫できるから、また取りにおいで」中さんの優しい言葉に、みんな笑顔で答えました。中農園を後にし、一同は伊丹市野外活動センターへ。夕食はダッチオープンに挑戦です。中農園でもらった玉ねぎを中心に、カレー、ローストポーク、ご飯を作りました。思った以上の出来栄と味に、思わず「美味しい!」と声が上がりました。お腹も膨らんだ20時ごろ、奇跡的に雨が止み、静かな夜が訪れました。近くを流れる羽束川(ハツカガワ)まで、ホテルを見に降りました。川辺に近づくと、優しい光が流れては消え、ついでには消え。期待を膨らませて岸に降りると、薄暗い川面に舞う、ホテルに出会いました。声にならない歓声が上がると、誰もがその景色に見惚れ、佇んでいました。その光は故郷を思う心と同じ色をしていたのかもしれませんが。ボランティアリーダー会をはじめ、多くの方々の善意が集まり、復興支援プログラムが継続されています。同時に、多くの被災者が、それぞれの環境で、今もなお先の見えない中、葛藤しながら暮らしています。「私たちにできることは何なのか」問い続ける中で、今回差した一途の光は、私たちに「隣人」へと、さらに近づけてくれたのではないかと考えています。今後も人と人の繋がりの中で未来に向かって共に歩んでいきたいと思っています。(キャンプディレクター 阪田 晃一)



# 感謝・寄付

感謝をもって

ご報告いたします。

(順不同、敬称略)

## 【寄付】

阪神地区諸教会イースター  
献金

## 【第28回神戸YMCA チャリティーゴルフ大会

参加者数 48名

収益金

231,491円

こども奨学金

25,810円

## 協力者氏名

- 松井隆介・吉野泰史・安行英文・東野幸一・中尾英輔・橋爪宏之・藤田良祐・今村裕章・堀江裕一・長野泰信・多胡葉子・武田寿子・武内浩子・下田恵美子・小笠原美根・山田賀世子・芝川英美子・吉原尚美・竹増操・尾上尚司・東谷敏雄・奥山泰仁・嘉納洋・上野恭男・福原吉孝・柏原佳子・高井和代・濱浩一・濱美智子・大田靖之・平塚明・平塚慶江・小林義明・文字利明・山本常雄・桂幸生・山本克己・万本敬一・大西弘一・光岡和美・市原法雄・川島義久・森忠司・藤谷能人・水野雄二・清水満・河野彰・堂本将司・阪根新・島田恒・尾崎伸



# 2013年“夏休み” 主役は君だ!!



余島は瀬戸内海に浮かぶ無人島。1950年に設立し、今年64年目の夏を迎えます。

余島キャンプでは子どもたちが“自分で選ぶ”“自分でやってみる”ことを大切にしています。自分を信じ待ってくれるリーダー、応援してくれる仲間。キャンプでは一人ではなく、自分と仲間とリーダーとそして雄大な余島の大自然が傍にあることに気が付きます。大自然の中で思いっきり大冒険してきた子どもたちはほんの少し遅しくなって帰ってきます。真っ黒に日焼けし真っ白な歯を見せて笑顔で帰ってくる姿を想像し、キャンプへ送り出してくださいれば幸いです。皆さんと余島で会えることを楽しみにしております！  
(余島キャンプ長 山本亮司)



2泊から11泊の多彩なキャンプラインナップから自分にあったキャンプを選んでください！  
キャンプの様子は「余島日記（キャンプブログ）」から♪



## ソナタ 奏鳴曲 No.58



総主事 水野雄二

### またあの「夏」が やってくる

青い空に白い入道雲、かしましい蝉の声に甲子園球児への声援が響く8月。日本にまたあの「夏」がやってきます。戦後生まれの私にとって、体験したことではないにもかかわらず、ずっと私の「原体験」のように染みついて、父母が味わった戦争の記憶が8月の蝉の声と共に私の脳裏に蘇ってきます。

8月15日。今から68年前、昭和20（1945）年のその日、私の父は中国遼寧省撫順市の日本軍に召集されており、敗戦と共に武装解除し、ソビエト軍の捕虜としてシベリアに抑留されました。3年後に帰国するまで、極寒のシベリア・スルジャンカ第11収容所での過酷な労働を体験しています。そしてその日、母は同じく遼寧省奉天市（現瀋陽市）に居て、満6か月の乳飲み子（姉）を抱いて右往左往していたはず。母もまた決死の逃避行の後、無事帰国しました。話に聞いたこれらの父母の体験が自分の「原体験」のように私の胸に深く沈んでいるようです。

私たちの神戸YMCAもまた、その年の6月5日の神戸大空襲によって爆撃に遭い、神戸市民に親しまれた「赤レンガの青年会館」は無残にも焼け落ちて、為すすべもなく瓦礫だけを残したままの8月15日であったでしょう。会館玄関に「YMCA」と刻まれた石だけが奇跡的にそのままの形で残っていたと言われます。「ここがYMCAだ！」言わんばかりに。戦後、神戸教会地下室からの再出発まで、神戸YMCAは戦争によって迷える一匹の子羊のようでした。

そして、戦後68年の平和な時代に生きる私たちにも、またあの「夏」がやってきました。あの時代に多くの人が体験した悲惨な出来事は二度と起こってはなりませんし、未来を生きる子どもたちにも出会わせたくない人災です。世界に誇る平和憲法の改定が議論される夏でもあります。父母の世代の方々の体験を無駄にすることなく、平和を受け継ぐ者でありたいと願っています。

## 2012年度YMCA国際協力募金へのご協力をありがとうございました

### 【支出】

日本YMCA同盟拠出金	300,000
タイワークキャンプ及びボランティア・チェンマイ派遣	1,376,760
定住外国人子ども奨学金	180,000
神戸YMCA国際奨学金	240,000
国際活動リーダーシップ養成	726,955
オリープの木・パレスチナ難民支援	95,485
CODE・PHD協会支援	200,000
九州広域豪雨災害支援	205,968
モザンビーク水害支援	220,866
開発・国際理解教育	146,635
事務局経費	189,908
計	3,882,577

### 【収入】

募金内訳	3,882,577
1) 一般募金（指定なし）	2,811,638
2) 指定募金	1,070,939



行きたいと思えます。

6月8日（土）、三宮会館チャペルにて東日本震災復興支援チャリティイベント「韓国・仁川YMCAコンサート」が開催されました。日本のYMCAでは、津波による被災地、福島第一原発事故による放射能の影響を受ける地域、そして避難している方々が暮らす全国各地で、全国のYMCA・学生YMCA・ワイズメンズクラブが行う、復興のための活動「Be Hear Project」を行っています。この私たち日本のYMCAの活動に賛同し、韓国・仁川YMCAの子どもたちが来日、京都YMCAと神戸YMCAで東日本震災復興支援のためのコンサートを行いました。仁川YMCAヨードルグループ22名、アンサンブルグループ18名が奏でる音楽はとても素晴らしく、聴いている人たちの心が開放されました。日本の童歌も奏でられ、チャペルの空気は終始和やかな雰囲気になりました。仁川YMCAとともに、神戸龍谷高等学校校楽部の皆さんにも演奏いただき、琴11台と尺八の音色で、会場の人たちはより一層つ繋がっていききました。音楽は国や文化を超えて交流できる力があり、今回のコンサートもそのことを強く感じました。コンサート終了後、仁川YMCAから神戸YMCAへ東日本震災復興支援募金が送られ、隣国に親しき友がいること、互いに思いあうことの素晴らしさを感じられました。コンサート終了後、仁川YMCAの子どもたち40名は、1泊2日のホームステイをしました。言葉の壁はありましたが、それぞれのホストファミリー宅で、日本の家庭を体験しました。短いステイの協力してくださったご家庭の皆さん、市内散策の通訳をしてくださいました。仁川YMCAの皆さんは、ホームステイプログラムが何よりも印象的だったと伝えてくれました。短いながらも充実した神戸の2日間のプログラムに満足していただきました。

神戸YMCAでは、東日本震災復興支援募金を、海外からは韓国・仁川YMCAをはじめ、震災直後から台湾・台中YMCA、タイ・チェンマイYMCA、アメリカ・北カリフォルニアの日系協会から、また個人の方からも届けられました。日々の活動を通して多くの人たちと互いに支えられ支える関係が強く支えられよう、今後とも皆さんとともに歩んで



ウエルネスセンター三宮	☎078 (241) 7202
YMCAホームヘルパーの事務所	☎078 (241) 7237
ランゲージセンター	☎078 (241) 7204
専門学校	☎078 (241) 7203
西宮YMCA	☎0798 (35) 5987
三田YMCA	☎079 (559) 0075
余島野外活動センター	☎0879 (62) 2241
国際・奉仕センター	☎078 (241) 7204
ウエルネスセンター学園都市	☎078 (793) 7401



西神戸YMCA	☎078 (793) 7402
西神南YMCA	☎078 (993) 1560
須磨YMCA	☎078 (734) 0183
YMCA保育園	☎078 (794) 3901
西宮YMCA保育園	☎0798 (35) 5992
西神戸YMCA保育園	☎078 (792) 1011
YMCAちとせ幼稚園	☎078 (732) 3542
西神戸YMCA幼稚園	☎078 (997) 7705
西宮つとがわYMCA保育園	☎0798 (26) 1016

## 2013年度 ボランティア奨励賞

### 村山ゆかりさん (ウエルネスセンター学園都市)

ラケットボールの楽しさを教えたい、ラケットボール人口を増やしたいという強い思いから毎週水曜日、成人メンバーに、毎週火曜日は子どもたちにラケットボール指導の手伝い、クリスマスイベントでリース作りなどを2年間にわたりご奉仕くださいました。村山さんご自身も選手として試合、大会に出場されています。

### 余島スーパーボランティアの皆さん (余島野外活動センター)

(辻沙喜子さん、村上裕亮さん、佐々木麻衣さん他10数名)  
2012年度1年間を通して、社会人でありながら週末など休みを利用して、余島運営補助をはじめ、後輩の指導などで貢献していただきました。新たなボランティアパスとしての道を切り拓き、今後のボランティア啓発に向けての第一歩を踏み出してくださいました。

### “まほうのハッピー”の皆さん (太山寺児童館)

「まほうのハッピー」は大学生を中心としたグループで、子どもたちが今まで体験しなかったことを毎月企画し、太山寺児童館でプログラムを行なっています。学園都市の小学生を対象に大きな布に手足を使って絵を描いたり、新聞紙あそびやキャンドルアートなどを行なっています。今年で活動9年目となりますが、地域のおにいさん、おねえさんとして子どもたちが安心して楽しめる遊び場づくりに貢献してくださっています。

### 啓明学院高等学校東日本震災復興支援ボランティアチーム

(東日本大震災復興支援チーム)

東日本大震災直後から、地域での募金活動を開始し、2011年、2012年と夏期2度実施した神戸YMCAボランティアバス派遣に総勢62名の方々が参加してくださいました。仙台YMCA支援活動地では、猛暑の中、作業の危険性や余震による影響、放射線の問題などのリスクを伴う活動でしたが、献身的に活動してくださいました。また、2012年夏に余島野外活動センターで福島の子どもたち30名を招いて実施した神戸YMCAサマーダイヤモンドキャンプには、グループカウンセラーとして、また、プログラムスタッフとして、10名の方々が参加してくださいました。キャンプ事前には、数回にわたる事前ミーティング、そして海洋センターでの海のプログラムに備えてのトレーニングなどを経てキャンプに望んでくださいました。これら支援活動も各機会でご報告し、地域の方々へ継続した支援や協力の呼びかけを共に行なってくださっています。

### 宮原 明さん (三田リーダー会OB及び震災リーダー) (三田センター)

現役の頃より地域活動(地域イベントでの復興活動、野外・キャンプ、日常サッカークラス)のみならず、震災リーダー会でも中心的な役割を担ってくださいました。今年度より就職先が新潟県となり、神戸から離れた場所での震災リーダー会への後方支援や、また地域での新たな復興支援活動を展開すべくその働きを続けています。運動体の中心として、また同志としてそのボランティアスピリットに敬意を表します。

6/5~6/8

### 高等学院修学旅行

今年の修学旅行は天候に恵まれた2泊3日でした。それぞれ沖縄を満喫し、楽しい思い出とお土産をたくさん持ち帰ることができました。



6/13

### 日本語科 歌舞伎鑑賞教室

年に一度の歌舞伎鑑賞。今年は学生代表が舞台上で助六のメーキャップに挑戦しました。出来ばえはどうでしょうか？



### 国際交流 わいわいしよう会

5月26日(日)、神戸YMCAカレッジで日本語を学ぶ学生、ワイズメンズクラブ、国際ボランティアリーダーの交流会が行われ、三宮会館中庭でのBBQを、会の名のおり、わいわいとにぎやかに1日を過ごすことができました。



### 第31回 午餐会のお知らせ

テーマ:「ミナト神戸の宗教とコミュニティー」  
講師:徐 亦猛(ジョイモン)さん  
日時:7月6日(土) 正午~午後2時  
会場:神戸YMCA 4階 会議室 会費:1,500円(昼食代を含む。)  
定員:40名 事前にご予約ください。定員になり次第締め切ります。  
申込・問合せ:神戸YMCA本部事務局 TEL 078-241-7201  
主催:神戸YMCA後援会

### 第27回 チャリティーワインを楽しむ会のお知らせ

テーマ:「ワインでお洒落な暑気払い!」  
日時:7月12日(金) 18:30~20:30  
会場:神戸ポートピアホテル31階 フレンチレストラン「トランテアン」  
会費:10,000円  
定員:60名 事前にご予約ください。定員になり次第締め切ります。  
申込・問合せ:神戸YMCA本部事務局 TEL 078-241-7201  
主催:神戸YMCA会員活動委員会

### ★★ 個人消息 ★★

【ご結婚】おめでとうございます。  
5月6日 林保奈美さん(西宮YMCA保育園保育士)、  
鳥谷真司さんと

【ご誕生】おめでとうございます。  
5月13日 小澤夏子さん(西宮YMCA保育園保育士)、  
咲人(さくと)くん

【退職】今までのお働きに感謝します。  
4月30日 西谷香名子さん(西宮つとがわYMCA保育園)